

<教育報告>

韓国老人の健康状態に影響をおよぼす関連要因分析に関する研究

金 龍 文

Analysis of factors related to the health status of the aged in Korea

Yong-Moon KIM

In this paper, an attempt was made to examine the factors related to the health status of the aged in Korea and to suggest policies for the improvement of aged health from the preventive aspect. A special research question raised in this study was "how one's recognition of their own health is affected by the ability to perform daily activities, and what factors contribute to the differences in health conditions".

Multi-variate analysis was employed to answer these questions by using the data-set from the "Living Profile and Welfare Service Needs of the Elderly in Korea" conducted by the Korea Institute for Health and Social Affairs in 1998. It was based on a sample Survey of 2,535 aged in 157 Enumeration Districts(ED) across the nation.

Regression analysis was the analytical model used in this paper. First, the differences in distribution of the socio-demographic factors related to the health condition of the different aged groups were analyzed, through simple regression analysis. Second, logistic regression analysis was performed on the demographic and social factors to determine the major factors affecting health conditions of the aged. In particular, three groups were identified for the second analytical purpose.

Group I is composed of the aged with no difficulties in ADL or IADL, Group II is composed of the aged with difficulties only in IADL, and Group III is composed of the aged with difficulties in ADL.

It was found that the characteristics of sex, age, educational level, employment, longest occupation, economic status, and membership to a social activity group were statistically significant to health level in Group I.

In addition, sex and marital status were statistically significant variables related to the health level for Group II with limitations in IADL.

Employment and social activities proved to be a statistically significant variable related to health level for Group III.

Based on the analysis, several policies for the health promotion of the aged were recommended. First of all, it was shown that living together was good for the health of aged couples. Therefore, social and cultural facilities for enjoyable activities, vacations and hobbies, and family welfare programs for aged couples, as psychological companions, should be provided.

Second, diverse approaches in social education targeted toward those in aged colleges or social welfare facilities are necessary as part of lifetime education. Third, in regards to the aged employment problem, the scope of jobs for the aged should be expanded and the "Aged Professional Manpower Bank" should be established for their employment and job search.

Fourth, awareness campaigns on health behavior such as smoking, drinking, etc., should be carried out. Fifth, daily exercise, hobby and leisure activities should be encouraged among the aged for their health maintenance and promotion.

Finally, a detailed plan must be established and implemented to enable the aged to enjoy a comfortable life in the family and in the society by approaching the aged issues from various socio-economic, health care and socio-psychological aspects.

Supervisor: Kenji HAYASHI

1. 序 論

現在、韓国社会が直面している急速な高齢化に際し、政府・企業・個人は国民の「暮らしの質」向上に多くの関心を抱いている。人口の高齢化は老人の絶対数が増加することを意味し、医学の発展は平均寿命を延長させ同時に老人の慢性疾患の有病も増加させる。韓国社会では65才以上の老人人口割合が2000年には7%を越えると予測され、老人の3大苦痛といわれる疾病、貧困、疎外感の問題を解決する政策が急務とされている。この中で、健康問題は貧困問題、情緒的問題と密接に関連しており健康問題の解決が他の問題の予防にもつながると考えられる。

本研究は韓国老人の健康問題に焦点を当て、老人の健康水準に影響を及ぼす多様な要因を分析し、その影響力を検討することによって健康問題の予防的接近をめざすものである。具体的な研究目的は1.老人の日常生活遂行能力によって健康水準に対する意識がどの様に異なるか 2.どのような要因が健康水準の相違に寄与しているか を分析することであり、これによって21世紀高齢社会にふさわしい予防的側面から見た老人健康管理総合政策を提示することが本論文の目的である。

2. 資料ならびに方法

- 1) 資料は1998年度韓国保健社会研究院で実施した「全国老人生活実態および福祉欲求調査」の原資料である。この調査は全国157標本調査区の10,683家庭を訪問して9,355家庭から回答を得ている。そのうち総老人数は2,726人であったが、分析に必要な項目が揃っている2,535人を分析の対象とした。
- 2) この2,535人を調査項目を基に次のような3種類の集団に分類した。
Ⅰ群：ADL,IADLともに、支障を持たない
Ⅱ群：ADLに支障はないが、IADLに支障がある（軽度障害老人：外出時要支援）
Ⅲ群：ADLに支障がある（重度障害老人：屋内外とも要支援）
- 3) 個々の老人の属性と上記3群の関連性を調べた。また、調査項目である主観的な健康水準を目的変数とした重回帰分析、ならびに主観的な健康水準を健康か否かで2分した2値を目的変数としたロジスティック回帰分析を行った。

3. 結 果

- 1) 性別に見ると、男の89.4%、女の78.3%がⅠ群に属していた。
- 2) 平均年齢を見ると、Ⅰ群71.2才、Ⅱ群75.3才、Ⅲ群72.0才であった。
- 3) 婚姻状態を見ると、有配偶者の88.3%、無配偶者の76.6%がⅠ群に属していた。
- 4) 教育水準では、就学経験のある老人の95.0%がⅠ群に属し、就学経験の無い老人では74.4がⅠ群に属して

いた。

- 5) 信仰の有無では、宗教を信仰している老人の83.9%、信仰していない老人の81.2%がⅠ群に属していたが、有意差は見られなかった。
- 6) 子女との同居の有無では、同居していない老人の86.1%、同居している老人の79.3%がⅠ群に属していた。
- 7) 非同居子女との接触頻度では特徴的なことは見られなかった。
- 8) 重回帰分析により、主観的な健康水準との関連を見ると、性別・婚姻状態・教育水準・経済活動の有無・社交運動団体加入の有無・主観的な経済状態・過去の最長従事職業等が有意な説明変数となった。
- 9) ロジスティック回帰分析により、主観的に見て健康か否かとの関連を見ると、上記分類のⅠ群では教育水準・経済状態・就業可否・社会活動団体加入の可否が有意な変数となり、Ⅱ・Ⅲ群では婚姻状態・就業可否が有意な変数となった。

4. 考察と提言

健康な高齢者であるほど、有配偶、高教育水準、就業中、非農業部門への長期従事、主観的な経済状態が良好、社会活動従事となっており、これらは他の研究結果と一致していた。これによりいくつかの政策提言ができる。

A) ミクロ的提言

- 1) 夫婦と一緒に生活することが健康に好影響をもたらすことから、夫婦が互いに精神的な同伴者として共に社会文化活動やレジャー、趣味活動を行えるような社会的、文化的空間そして家族との対話を通じた家庭の平安を維持する家庭福祉プログラムが必要である。
- 2) 高教育水準が健康に好影響をもたらすことから、生涯教育の観点からの老人大学や社会福祉施設の老人を対象とした様々な社会教育が必要である。
- 3) 就業問題と関連して、老人に適合した職種の範囲の拡大、老人の就業と創業支援のための「老人専門マンパワーバンク」を拡大設置する事が必要である。
- 4) 農業部門に従事した老人の健康状態は比較的良くないことから、農薬の保管や使用の定期的な指導、農村地域に多い健康に悪影響を及ぼす生活習慣を改善する広報活動を展開すべきである。
- 5) 自分の経済状況を主観的にどのように認識しているかが健康状態に影響を及ぼすことから「Money is not everything」という国民意識の改善運動を展開すべきである。現代の拝金主義、極度の商業主義を克服するための国民精神運動をも展開すべきである。
- 6) 老人も気軽なスポーツ、趣味、娯楽活動を通じて健康の維持増進を図ることができるような老人のためのレジャープログラムの開発が必要である。

B) マクロ的提言

- 1) 人口高齢化によって増大する慢性疾患患者の要求に応じることができる老人保健医療サービスの供給システ

ムを構築すべきである。そのための手段として保健所などでの専門マンパワーの拡充と在宅サービスの強化、老人専門病院、療養施設、デイケアセンターと短期滞在保護センター、在宅サービス支援センターなどの運営が必要である。

- 2) 老人性疾患の予防・治療・リハビリテーション・介護などに必要な専門保健医療マンパワーを養成するための教育および訓練プログラムを開発する必要がある。
- 3) 在宅および療養施設で発生した治療費、療養費を支払う医療保険の給付範囲を調整し、老人疾患の特性を

考慮した医療費支払いシステムを開発すべきである。

- 4) 高齢化社会では生産性の向上のために非老人階層の時から健康増進および疾病予防的な努力が必要なので、そのための地域保健事業の活性化が求められる。
- 5) 21世紀高齢社会に対応し、老人医療の需要増加、多様化および特性化された医療欲求を充足させ、しかも国民医療費を節減し、医療資源の効率的な活用のために、現行の治療中心の医療サービスシステムを構造的に変化させるべきである。